

令和6年産水稻の作柄概況

令和6年11月27日
神奈川県農業技術センター

1 育苗期

育苗期の平均気温は平年並み～やや高く推移した。一部、高温により徒長が見られたものの、概ね生育は順調であった。苗立枯病の発生が一部地域で確認された。

2 生育初期（移植期～分けつ期前半）

移植時期の気温は、6月上旬植えて平年並み、6月中旬植えて平年より高く推移し、日照時間は平年並みであった。また、6月中旬から下旬にかけて降水量が多かった。草丈は平年より長く、茎数は平年並みから少なく、葉色は平年並みであった。

3 生育中期（分けつ期後半～出穂期前）

7月上旬から下旬にかけて、平年よりも気温が高い日が続き、降水量は平年よりも少なかった。草丈は長く、葉色ではやや濃い傾向であった。茎数は6月上旬植えの‘はるみ’、‘キヌヒカリ’、6月中旬植えの‘てんこもり’で少なく、6月上旬植えの‘てんこもり’、6月中旬植えの‘はるみ’、‘キヌヒカリ’で多い傾向であった。また、7月中旬の中干し時期に降雨があったため、一部の地域で中干し期間の延長が行われたが、十分な中干しを行えなかった地域もみられた。

4 出穂期

7月上旬以降の気温は平年と比べて高く、日照時間は平年と比べて長かった。出穂は6月上旬植えて5日、6月中旬植えて2～4日早くなった。

5 成熟期

成熟期は平年に比べ5～8日早まり、特に、6月中旬植えの‘てんこもり’で大幅に早まった。登熟日数は平年に比べて1～3日短縮した。収穫適期は平年に比べ大幅に早まった。収穫時期は平年と大きく変わらず、全体的に刈り遅れの傾向であった。

稈長は概ね平年並みだったが、6月上旬植えの‘キヌヒカリ’で平年よりやや短く、6月中旬植えの‘てんこもり’で長くなった。穂長は概ね平年並みであったが、6月上旬植えの‘はるみ’‘キヌヒカリ’で長い傾向であった。穂数は品種、作期によってばらつきがあり、‘はるみ’では6月上旬植えて平年並み、6月中旬植えて多かった。‘キヌヒカリ’は6月上旬植えて少なく、6月中旬植えてやや多かった。‘てんこもり’では6月上旬植えてやや多く、6月中旬植で平年並みであった。また、倒伏はほとんど見られなかった。

6 玄米品質

出穂期以降の高温の影響で、白未熟粒の発生が多くなった。その上、斑点米カメムシ類による斑点米、刈り遅れ等による胴割米、着色米も見られたことから、品質は著しく低下した。

7 病害虫、雑草の発生

病害は縞葉枯病、紋枯病の発生が見られたが、大きな被害はなかった。内穎褐変病等による籾の褐変が一部で発生した。

害虫は斑点米カメムシ類の発生が例年に比べて多く、被害が各地で見られた。スクミリンゴガイの発生が多く、一部地域で被害が見られた。セジロウンカの8月期の飛来が平年よりも多くみられたが、大きな被害はなかった。

雑草は活着期から分けつ期に藻類が、中干し以降はヒエ類、ツユクサ、イボクサ、ホタルイ、オモダカ、クログワイの発生が目立った。ナガエツルノゲイトウについては昨年よりも発生ほ場が増加した。

8 作柄概況（農業技術センター（平塚市）における成熟期並びに収量等について）

本年の成熟期並びに収量等の状況は、平年値(2014～2023年までの過去10年平均)と比べて、下記の表のとおりであった。

表1 成熟期の生育状況（平年対比）

品種	移植時期	稈長	穂長	穂数
はるみ	6月上旬	同等	長い	同等
	6月中旬	同等	同等	多い
キヌヒカリ	6月上旬	やや短い	長い	少ない
	6月中旬	同等	同等	多い
てんこもり	6月上旬	同等	同等	やや多い
	6月中旬	長い	同等	同等

表2 収量等の状況（平年対比）

品種	移植時期	玄米重	屑米重	千粒重	一穂籾数	登熟歩合
はるみ	6月上旬	やや少ない	少ない	同等	少ない	やや低い
	6月中旬	少ない	多い	やや軽い	同等	低い
キヌヒカリ	6月上旬	少ない*	少ない	同等	多い	やや低い
	6月中旬	やや少ない	多い	やや軽い	少ない	低い
てんこもり	6月上旬	同等	多い	やや軽い	同等	低い
	6月中旬	やや少ない	多い	同等	少ない	同等

注：平年とは過去10年(2014～2023年)の平均。ただし、はるみは2015～2023年までの過去9年平均、てんこもりは2018～2023年までの過去6年平均である。*は平年に比べて20%以上減少を表している。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL：0463-58-0333 内線 381～384